

# 第 130 回日本森林学会大会のお知らせ（第 2 回）

一般社団法人 日本森林学会会長  
第 130 回日本森林学会大会運営委員長

第 130 回大会を新潟県新潟市で開催します。今回は開催時期が例年より 1 週間早いほか、開催期間中の日程も異なっていますのでご注意ください。詳細は随時、学会ウェブサイト (<https://www.forestry.jp/>) に掲載します。日本森林学会メールマガジン（月 1 回配信）でもお知らせいたしますので、登録をお願いします (<https://www.forestry.jp/mail/magazine/>)。

1. 日 程	午前	午後
2019 年 3 月 20 日（水）	各種委員会	研究発表
3 月 21 日（木）	研究発表	公開シンポジウム・授賞式・受賞者講演・懇親会
3 月 22 日（金）	研究発表	研究発表
3 月 23 日（土）	関連研究集会	関連研究集会

2. 会 場 新潟市 新潟コンベンションセンター「朱鷺メッセ」

### 3. 参加・発表資格

#### 【会員】

- 大会参加の事前申込みを行うことができます。
- 研究発表を行うことができます。
- 入会予定の方は学会ウェブサイトの「入会案内」を御覧ください (<https://www.forestry.jp/welcome.html>)。入会手続きが完了していませんと、学術講演集原稿（要旨）の入稿ができませんので、お早めに入会手続きをお済ませください。

#### 【非会員】

- 大会当日の受け付けにより参加することができます。事前のオンライン登録はできません。
- 研究発表を行うことはできません。ただし企画シンポジウムでは、コーディネータからの申請に基づき非会員の方も研究発表を行うことができます（その場合は、オンラインでの事前参加登録と研究発表登録を行い、参加費をお支払ください）。

#### 【研究発表を行わない学部生（大会参加登録開始の時点で学部所属している学生）】

- 会員・非会員ともに大会参加費が無料となります。大会当日のみの受け付けです。事前のオンライン登録はできません。なお、「発表を行う学部生の学生会員」および「学部生以外の学生会員（例えば大学院生）」は大会参加費をお支払ください。

### 4. 研究発表の概要

- 研究発表は、部門別口頭発表、部門別ポスター発表、公募セッション（口頭発表；ポスター発表を受け付けるセッションもあり）、企画シンポジウム（口頭発表のみ）に分けて行います。
- 第 129 回大会より、「教育」部門が新設されました。また、第 130 回大会より、観光・レクリエーション分野と風致部門が統合し、自然資源管理、景観（ランドスケープ）、文化を含む森林の社会的側面に関する新たな部門として、「風致・観光」部門が新設されました。林政、風致・観光、教育、経営、造林、遺伝・育種、生理、植物生態、立地、防災、利用、動物・昆虫、微生物、特用林産の 14 部門となります。部門選択の際には 5. の部門キーワードを参考にしてください。
- 公募セッションは、既存の部門ではカバーできない部門横断的なテーマについて会員の研究交流を継続的に進めることを目的としたセッションです。ポスター発表が併設される公募セッションもあります。発表者は公募のみで、部門別発表と同様の発表形式です。130 回大会で設置される公募セッションは、学会ウェブサイトに掲載します（9 月下旬を予定しています）。
- 企画シンポジウムは、森林学に関する明瞭で簡潔にまとめたテーマをもったシンポジウムです。発表者は公募せずコーディネータが決定します。企画シンポジウムの講演者も研究発表の申込みを行ってください。130 回大会で開催される企画シンポジウムは、学会ウェブサイトに掲載します（9 月下旬を予定しています）。
- 発表者は筆頭者に限ります。また筆頭者としての発表は、すべての発表形式を通じて 1 人 1 件に限ります（ただし学会各賞を受賞された方の受賞者講演は除きます）。筆頭者以外の著者による代理発表はできませんのでご注意ください。
- 部門別口頭発表と部門別ポスター発表、公募セッションの発表者は本学会会員（平成 30 年度分）に限ります。会員でない方は、研究発表申込みの前に、学会ウェブサイトの「入会案内」

(<https://www.forestry.jp/welcome.html>) から入会の手続きを行ってください。

- 部門別口頭発表，部門別ポスター発表，公募セッションのいずれで発表するかは，原則として発表者の希望によりますが，プログラム編成委員会で調整を行う場合がありますので，ご了承ください。 ポスター発表会場のスペースに制限がありますので，なるべく口頭発表にお申込みください。
- 研究発表は，森林学に関する研究成果で，学術講演集の原稿の締切（2019年1月10日(木)）までに結果と結論の得られるものとします。
- 学会ウェブサイトから発表の申込みを行っていただきます。参加申込み，発表申込みのサイトは10月下旬に開設します。申込み方法の詳細は学会ウェブサイト (<https://www.forestry.jp/>) でお知らせします。
- 研究発表申込みの際に登録した著者名・所属，題名は，2018年11月15日(木)17:00以降は修正ができません。したがって，学術講演集原稿の提出時にも修正ができません。申込みの際には共著者（特に学生の方は指導教員の先生等）とよく相談した上でお申込みください。
- 大会当日，受付をせずに発表をされても正式な発表記録とはなりません。後日 J-Stage に登録される発表データベースからは削除されますので，発表される方は必ず受付を済ませてください。
- 口頭発表の器材は液晶プロジェクターとします。OHPは使用できません。

## 5. 部門キーワード

林政部門（委員長：横田康裕（森林総合研究所），委員：興相克久（筑波大学），垂水亜紀（森林総合研究所），芳賀大地（鳥取大学），三木敦朗（信州大学））

経済学・社会的アプローチ，森林・林業政策，林業経済，木材産業・流通，森林所有者，林業経営体・事業体，林業労働者，山村社会・経済，環境・資源ガバナンス，自然資源管理政策，文化，市民参加・住民参加

Forest Policy

economic and sociological approaches, forest and forestry policy, forest economy, forest products industry and market, forest owners, forestry management entities and forestry enterprises, forestry workers, mountain village society and economy, governance on the environment and resources, natural resource management policy, culture, public participation

風致・観光部門（委員長：田中伸彦（東海大学），委員：愛甲哲也（北海道大学），奥敬一（富山大学），庄子康（北海道大学），山本清龍（東京大学））

景観，公園緑地，自然公園，庭園，観光，レクリエーション，レジャー，ホスピタリティ，旅行業，保護地域管理，自然資源管理，協働型管理，野生動物管理，世界遺産，伝統文化，民俗，森林療養，心理と行動，里山，設計施工，文化的サービス

Landscape Management and Tourism

landscape, parks and open spaces, nature parks, gardens, tourism, recreation, leisure, hospitality, travel industry, protected area management, natural resource management, collaborative management, human dimensions of wildlife, world heritage, traditional culture, folklore, forest therapy, psychology and behavior, satoyama landscape, design and construction, cultural services

教育部門（委員長：杉浦克明（日本大学），委員：大石康彦（森林総合研究所），井上真理子（森林総合研究所），東原貴志（上越教育大学），青柳かつら（北海道博物館））

森林教育，森林環境教育，環境教育，野外教育，専門教育，学校教育，社会教育・施設，林産教育，木育，教材・プログラム，教育評価・効果，指導者養成，カリキュラムマネジメント，研修・安全教育，地域学習，地域連携，サイエンスコミュニケーション，教育倫理

Education

forest education, forest environmental education, environmental education, outdoor education, specialized education, school education, social education and facility, forest products education, wood education, teaching materials and program, educational assessment and effect, leadership training, curriculum management, training and safety education, community study, regional partnership, science communication, educational ethics

経営部門（委員長：広嶋卓也（東京大学），委員：露木 聡（東京大学），龍原 哲（東京大学），古家直行（森林総合研究所），當山啓介（東京大学））

森林計画，経営評価，機能評価，森林作業法，森林調査法，成長モデル，モニタリング，リモートセンシング，森林 GIS，景観管理，LiDAR，航空レーザ測量，地上レーザ測量，デジタル航空写真測量，SfM，REDD+，収獲予測，ゾーニング，オペレーションズリサーチ

Forest Management

forest planning, forest management assessment, forest function evaluation, forest working system, forest

inventory, growth model, monitoring, remote sensing, forest GIS, landscape management, LiDAR, airborne laser scanning, terrestrial laser scanning, digital photogrammetry, SfM, REDD+, yield prediction, forest zoning, operations research

造林部門（委員長：吉田俊也（北海道大学），委員：平田令子（宮崎大学），渡邊仁志（岐阜県森林研究所），八木橋勉（森林総合研究所），酒井武（森林総合研究所））

人工林施業，天然林施業，目標林型，成長，競争，林分構造，現存量，密度管理，光環境，育苗，植栽，天然更新，萌芽，保育，間伐，伐採，低コスト造林，長伐期，複層林，混交林，多様性復元，里山管理  
Silviculture

planted forest management, natural forest management, target forest type, growth, competition, stand structure, biomass, density control, light environment, nursery practices, planting, natural regeneration, coppice, tending practices, thinning, cutting, low-cost silviculture, long-term rotation, multi-storied forest, mixed forest, restoration of biodiversity, satoyama management

遺伝・育種部門（委員長：森口喜成（新潟大学），委員：木村恵（森林総合研究所），玉木一郎（岐阜県立森林文化アカデミー），内山憲太郎（森林総合研究所），石塚航（北海道立総合研究機構林業試験場））

遺伝子資源保全，育種計画，材質育種，抵抗性育種，花粉症対策，特性評価，採種園，種苗増殖，育苗技術，組織培養，分子育種，遺伝子工学，ゲノム解析，連鎖解析，遺伝子発現，遺伝子流動，遺伝構造，遺伝的多様性，系統地理，適応，交雑，着花促進

Forest Genetics and Tree Breeding

genetic conservation, breeding strategy, improvement of wood property, breeding for resistance, countermeasure for pollinosis, test of specific character, seed orchard, propagation of nursery stocks, nursing technology, tissue culture, molecular breeding, genetic engineering, genomics, linkage analysis, gene expression, gene flow, genetic structure, genetic diversity, phylogeography, adaptation, hybridization, promotion of strobilus

生理部門（委員長：則定真利子（東京大学），委員：小島克己（東京大学），斎藤秀之（北海道大学），田原恒（森林総合研究所），津山孝人（九州大学））

樹木生理，個体生理，生態生理，水分生理，栄養成長，生殖成長，物質輸送，栄養，環境応答，ストレス耐性，光合成，呼吸，代謝，細胞小器官，細胞壁，植物ホルモン，組織培養，形質転換，遺伝子発現，ゲノム解析，エピゲノム解析，オミクス解析

Tree Physiology

tree physiology, whole plant physiology, ecophysiology, water relations, vegetative growth, reproductive growth, transport, nutrition, environmental response, stress tolerance, photosynthesis, respiration, metabolism, organelle, cell wall, plant hormones, tissue culture, genetic transformation, gene expression, genomics, epigenomics, omics

植物生態部門（委員長：長池卓男（山梨県森林総合研究所），委員：今博計（北海道立総合研究機構林業試験場），鳥丸猛（三重大学），平山貴美子（京都府立大学），松井哲哉（森林総合研究所））

生物多様性，生態系サービス，生態系機能，生態系管理，ゾーニング，森林景観，順応的管理，生物群集，生物間相互作用，攪乱，植生遷移，物質循環，森林動態，植物遺体，樹形，生活史戦略，気候変動，地理分布，モデル

Forest Ecology

biological diversity, ecosystem service, ecosystem function, ecosystem management, zoning, forested landscape, adaptive management, plant community, biological interaction, disturbance, plant succession, material cycle, forest dynamics, litter and woody debris, tree architecture, life-history strategy, climate change, geographical distribution, model

立地部門（委員長：大久保達弘（宇都宮大学），委員：石塚成宏（森林総合研究所），釣田竜也（森林総合研究所），丹下健（東京大学），徳地直子（京都大学），戸田浩人（東京農工大学），長倉淳子（森林総合研究所））

土壌生成，土壌分類，土壌理化学性，炭素動態，窒素動態，物質循環，気象害，水循環，土壌生物，花粉分析，地位，植物生態，森林衰退，大気降下物，地球温暖化，細根動態，放射性物質，生物地球化学，土壌呼吸，温室効果ガス

Forest Environment

pedogenesis, soil classification, soil physical and chemical properties, carbon dynamics, nitrogen dynamics, nutrient cycling, meteorological damage, hydrological cycle, soil organisms, pollen analysis, site quality, plant ecology, forest decline, atmospheric deposition, global warming, fine root dynamics, radioactive substance, biogeochemistry, soil respiration, greenhouse gas

防災部門（委員長：堀田紀文（東京大学），委員：岡田康彦（森林総合研究所），勝山正則（京都大学），澤野真治（森林総合研究所），田中延亮（東京大学））  
森林防災，土砂災害，斜面安定，表面侵食，水文，水循環，流域，降雨流出過程，蒸発散，樹木の水分生理，  
土壌水分，森林気象，緑化，水質，生物地球科学過程，同位体，トレーサー，大気降下物，地下水，温室効果ガス，  
気候変動，水資源  
Forest Disaster Prevention and Hydrology  
forest disaster prevention, sediment-related disaster, slope stability, surface erosion, hydrology, water cycle, catchment, rainfall-runoff process, evapotranspiration, hydraulic trait of trees, soil moisture, forest meteorology, revegetation, water quality, biogeochemical processes, isotope, tracer, atmospheric deposition, groundwater, greenhouse gases, climate change, water resources

利用部門（委員長：有賀一広（宇都宮大学），委員：鹿島潤（森林総合研究所），山口浩和（森林総合研究所），櫻井倫（宮崎大学），齋藤仁志（信州大学））  
森林路網，林業土木，木材生産，林業機械，林業用ロボット，作業システム，労働科学，安全管理，バイオマス利用，森林情報，ロジスティクス，環境へのインパクト，ICT，再造林技術  
Forest Engineering  
forest road network, forest civil engineering, timber production, forest machinery, forestry robot, working system, ergonomics, safety management, biomass utilization, forest information, logistics, environmental impact, information and communication technology, reforestation technology

動物・昆虫部門（委員長：梶村恒（名古屋大学），委員：中村克典（森林総合研究所），山崎理正（京都大学），小池伸介（東京農工大学），加賀谷悦子（森林総合研究所））  
森林昆虫，森林病虫害，マツ材線虫病，ブナ科樹木萎凋病，キクイムシ，共生微生物，森林動物，野生動物管理，ニホンジカ，ツキノワグマ，森林性鳥類，生物間相互作用，生物群集，食物網，生物多様性，個体群動態，密度調節，大発生，種子散布，土壌動物，外来生物，系統進化  
Forest Insects and Animals  
forest insects, forest pest, pine wilt disease, Japanese oak wilt, scolytid and platypodid beetles, symbiotic microbes, vertebrates in forests, wildlife management, sika deer, Asian black bear, forest birds, biological interaction, ecological community, food web, biodiversity, population dynamics, regulation of population density, outbreak, seed dispersal, soil animals, invasive species, phylogeny and evolution

微生物部門（委員長：奈良一秀（東京大学），委員：太田祐子（日本大学），松田陽介（三重大学），竹内祐子（京都大学），小松雅史（森林総合研究所），小長谷啓介（森林総合研究所））  
菌類，細菌類，菌根菌，内生菌，木材腐朽菌，共生，寄生，分解，養分循環，根粒，窒素固定，微生物群集生態，微生物集団遺伝，樹病，病原，防除，抵抗性，マツ材線虫病，ブナ科樹木萎凋病，線虫，ウイルス  
Forest Microbes  
fungi, bacteria, mycorrhizal fungi, endophytes, wood-decay fungi, symbiosis, parasitism, decomposition, nutrient cycling, root nodule, nitrogen fixation, microbial community ecology, microbial population genetics, forest pathology, pathogens, disease control, disease resistance, pine wilt disease, Japanese oak wilt, nematodes, virus

特用林産部門（委員長：奈良一秀（東京大学），委員：太田祐子（日本大学），松田陽介（三重大学），竹内祐子（京都大学），小松雅史（森林総合研究所），小長谷啓介（森林総合研究所））  
きのこ，マツタケ，シイタケ，エノキタケ，シメジ，たけのこ，わさび，うるし，樹脂，山菜，竹材，トウ，木炭，樹実類，薬用植物  
Non-Wood Forest Products  
mushrooms, Matsutake, Shiitake, Enokitake, Shimeji, bamboo shoot, wasabi, lacquer, resin, edible wild plants, bamboo, rattan, charcoal, wild fruits, medicinal plants

## 6. 大会参加の申込み

大会参加ならびに懇親会の参加申込みは、すべて学会ウェブサイトの大会参加・研究発表申込み専用サイトからオンライン登録で行います。Fax, E-mailによる大会参加の受け付けは行いません。大会参加・研究発表申込み専用サイトは、学会のウェブサイトに10月下旬頃に開設します。

研究発表をする場合は、大会参加の申込みと7.の研究発表の申込みの両方を行ってください。

締切: 2018年11月15日(木) 17:00 (研究発表をする場合)

締切: 2019年1月10日(木) (研究発表はしないが、大会に参加し参加費を前納する場合)

- 登録の際、会員番号の入力が必要です。

会員番号は日本森林学会誌が封入されている封筒の表側に記載されています。これから入会を予定しており、参加申込みの時点で会員番号をまだお持ちでない方は、専用サイトから登録を行う際に仮番号が自動的に用意されます。ただし、研究発表をされる場合、正式の会員番号が入力されなければ学術講演集原稿の提出ができません。学術講演集原稿の提出締切の2019年1月10日までに会員番号が確実にお手元に届くよう、どうか余裕をもって入会手続きを行ってください。

- 大会参加の申込み時に参加費の払込みを行います。  
参加費の払込みは基本的に専用サイトからカード決済（VISA, MASTER）で、期日までにご利用いただけます。大会参加費等の詳細は、学会ウェブサイトに掲載します。郵便振替をご利用の方は専用サイトで郵便振替選択ボタンをチェックの上、期日までに事務局で確認されるように振替を行ってください。払込取扱票は、参加者1名につき必ず1枚ずつ使用してください。郵便振替によるお支払いは、学会事務局で確認されるまでに7~10日程度かかる場合もあります。どうか余裕をもってお支払い手続きを行ってください。いったん納入された大会参加費・懇親会費は返却いたしません。
- 参加費の払込み手続きが行われない場合には、研究発表をキャンセルしたものととして処理いたしますのでご注意ください。
- 研究発表をしない場合、事前の参加申込みでなく大会当日の参加申込みは可能ですが、受付が混雑して手続きに時間がかかることが予想されます。また、予想を上回る当日参加者があった場合、プログラムおよび大会学術講演集の配布ができない可能性がありますので、上記締切までにお申込みいただくようお願いします。

## 7. 研究発表の申込み

研究発表の申込みは、学会ウェブサイトの大会参加・研究発表申込み専用サイトからオンライン登録で行います。大会参加申込みをただけでは、研究発表の申込みは完了していません。必ず大会参加申込みの後に研究発表申込みを行ってください。専用サイトは10月下旬頃に開設します。

締切：2018年11月15日（木）17：00

- 研究発表の申込みの受理には、参加費の払込みが事務局で確認されることが必要となります。参加費の払込みが確認できない場合は、研究発表をキャンセルしたものととして処理いたしますのでご注意ください。
- 留意点などは、「4. 研究発表概要」を御覧ください。

## 8. 学術講演集原稿の提出

学術講演集の原稿は、学会ウェブサイトの大会参加・研究発表申込み専用サイトからオンラインで入力してください。

締切：2019年1月10日（木）17：00

- 参加費の払込みが事務局で確認された時点で、入稿が可能となります。入会予定の方は、入会手続きの完了も必要となります。
- 原稿は、全角500字に相当するバイト数（制御文字含む）以内で日本語、または英語で入力してください（図表は使用できません）。ギリシャ文字、斜体、下付・上付文字などの入力、入力画面の説明を参考にしてください（ワープロからコピー&ペーストしても文字飾りは反映されませんのでご注意ください）。詳しい入力方法については、ウェブサイトに案内を掲載する予定です。また、2018年11月15日（木）17：00以降は、著者名・所属、題名の変更はできません。
- 学術講演集は冊子として印刷され、大会当日配布されるとともに、大会開催の約1ヶ月前に学会ホームページに掲載いたします。また、大会終了後には大会発表データベース（予稿集公開システムJ-STAGE）にて公開される予定です。

## 9. 学生ポスター賞について

日本森林学会学生ポスター賞は、学生会員の研究の奨励を目的として、日本森林学会大会で優れたポスター発表を行った学生会員に授与されます。学生会員が筆頭発表者であり、研究発表申込時に学生ポスター賞に応募したポスター発表が対象です。学生会員の積極的な参加を期待しています。

## 10. 第6回高校生ポスター発表参加者募集

日本森林学会では、森林・林業への青少年の興味関心を喚起し、中等教育における学習研究を支援する目的から、第125回大会より高校生のポスター発表を実施しています。第130回大会でも同様にポスター発表を募集いたします。詳細は、学会ウェブサイトにて公開します。応募は、2018年11月15日(木)17:00締切です。

会員の皆様におかれましては、お知り合いの高校の先生・生徒の皆さんに応募をお勧めいただければ幸いです。

## 11. 関連研究集会について

本大会に付随して開催を予定している関連研究集会の責任者の方は、日時、テーマ、参加予定人数を 2018 年 11 月 15 日（木）までに大会運営委員会（jfs130@agr.niigata-u.ac.jp）にご連絡ください。森林学に関連する研究集会であれば、定期的で開催されているものでなくても構いません。採否は大会運営委員会が判断します。なお、会場費は開催者が負担し、また、会場係等も開催者が手配してください。会場の大きさにより会場費は異なります。関連研究集会は今のところ最終日の 3 月 23 日（土）に配置する予定です。この日以外の開催は受け付けません。

## 12. 大会に関する連絡先

・日本森林学会への入会に関する連絡先

〒102-0085 東京都千代田区六番町 7 日林協会館内

日本森林学会事務局

E-mail: office@forestry.jp

・第 130 回大会の参加申込み・発表申込みシステムに関する連絡先

〒102-0085 東京都千代田区六番町 7 日林協会館内

日本森林学会事務局

E-mail: taikai@forestry.jp

・第 130 回大会の研究発表（部門別口頭発表、部門別ポスター発表、公募セッション、企画シンポジウム）に関する連絡先

〒102-0085 東京都千代田区六番町 7 日林協会館内

日本森林学会プログラム編成委員会

E-mail: 130program@forestry.jp

・第 130 回大会学生ポスター賞に関する連絡先

〒102-0085 東京都千代田区六番町 7 日林協会館内

日本森林学会学生ポスター賞選考委員会

E-mail: hyosyo@forestry.jp

・第 130 回大会高校生ポスター発表に関する連絡先

〒950-2181 新潟市西区五十嵐 2 の町 8050

新潟大学農学部内

第 130 回日本森林学会大会運営委員会 高校生ポスター発表事務局

E-mail: high\_school@forestry.jp

・第 130 回大会の上記以外（関連研究集会の申込みを含む）に関する連絡先

〒950-2181 新潟市西区五十嵐 2 の町 8050

新潟大学農学部内

第 130 回日本森林学会大会運営委員会

E-mail: jfs130@agr.niigata-u.ac.jp



# 日本森林学会大会

## 「第6回高校生ポスター発表」参加者募集



日程 2019年3月22日（金）

会場 新潟コンベンションセンター

「朱鷺メッセ」新潟市中央区万代島6-1

主催 一般社団法人 日本森林学会

（第130回日本森林学会大会開催 2019年3月20日～23日）

日本森林学会は、森林・林業を総合的に扱う学会として、研究成果の社会への普及を図るとともに、学校と連携して教育支援を行う社会貢献活動にも取り組んでいます。

その一環として、次世代を担う高校生を対象に、森林に関わる調査や実践的な活動を紹介するポスター発表を募集します。

**参加資格** 高校生の個人・グループ（各学校 1～2件）。

- ・普通科，専門学科，総合学科の教育課程全てを含みます。
- 後期中等教育学校，高等専門学校，通信制および定時制課程など校種等は問いません。
- ただし，発表者には必ず高校生相当の学年の生徒を含むこと（中等教育学校の場合等）。
- ・会場の都合等で発表件数を制限させていただくことがあります。

**ポスター** 縦 120 cm，横 84 cm（A0サイズ）のスペースを用意しています。

**参加費用** 無料（高校生，高校教員およびその関係者）

- ★森林学会で実施される他の講演，ポスター発表も聴講可能です！
- ★国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」助成事業です。
- 旅費・宿泊費の補助を予定（申込み受付時に申請してください）。
- 補助額：申請状況から公平性を考慮して決定（上限あり，実費以下）。
- 補助対象：発表高校生・引率者（数制限有）。中学生相当は補助対象外。

**内 容** 森林に関する調査研究や実践的な取り組みについての発表

- 例 森林の動植物や微生物の種多様性や生態の調査報告
- 環境教育や植樹などの森林に係わるボランティア活動の取り組み
- 地域の林業や木材産業，キノコ生産などの調査

**応募方法** 2018年11月15日（木）17：00まで 申込み受付

学校単位で教員が応募。

学会HPに掲載の様式をダウンロードし，下記の事務局にE-mailで申し込む。

2019年 1月10日（木）17：00まで発表要旨締切（500字以内 E-mailでの投稿）

2019年 2月22日（金）発表ポスター提出（電子ファイル）

詳細は，下記の日本森林学会HPの日本森林学会大会第130回大会のお知らせに掲載します。

<http://www.forestry.jp/>

**そ の 他** 応募ポスターの中から特に優秀なものを表彰します。

「ポスター集」発行予定（著作権は学会に帰属します）。

[連絡先] 〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050 新潟大学農学部内  
第130回日本森林学会大会運営委員会 高校生ポスター発表事務局

E-mail: [high\\_school@forestry.jp](mailto:high_school@forestry.jp)

